平成 25 年度スローガン『　Try　to　Run　』

たいよう

3月号

NPO静岡県青年団連絡協議会
機関紙 たいよう　第57巻-6号
平成26年3月31日発行
発行責任者　　草野　心路
編集・発行　　組織部
〒420-0068静岡市葵区田町1-70-1
TEL　054-254-2006
E-mail　kendan@youthnet.or.jp

仲間と語り新しい自分を発見する

平成 26 年 1 月 25 日から 26 日にかけて、島田市野外活動センター山の家で第 56 回静岡県青年問題研究集会（別名 KATARI 場）を開催しました。今回は、以前参加者に好評であった会場を選定し、周りに建物のない豊かな自然の中で語り合いました。分科会では、当初は自分のことをなかなか話せていませんでしたが、様々な話をする中で緊張がほぐれ、次第に本音で語り合うことができました。当日は、分科会での語り合いだけでなく、県青連協 OB による基調講演、各種青年団体の活動発表、いわて復興スタディツアー参加者の報告会などの話を聞く時間を作ったことで多くの学習要素を盛り込むことができ、それぞれの時間で新たな発見が出来ました。

新しい発見をするためは、先ず自分のことを知らなくてはなりません。また、仲間の声が自分にとっての新たな発見になります。悩みがないと簡単に考えず、何を改善したら心豊かな人物になれるのかという視点をもって、青年問題研究集会に臨むと、絶大な効果をもたらします。日々の生活で、何をどうしたら良くできるのかと貪欲に考え、何事にも挑戦していく姿勢で前向きに生きていきましょう。　　組織部

全体会での発表風景

活動発表の様子

今年も KATARI 場に参加しました。参加するにあたって事前に一年間の振り返りをして、その中で自分が悩んでいることや目標などを話し合いました。

私は、社会人二年目にも関わらず、なかなか仕事が覚えられないことを悩みとして話しました。語り合うなかで、自分で自分の仕事を難しくしているのではないかということに気づきました。この事に気づけたのは、人に自分の悩んでいることを打ち明けたからだと思います。日頃から、人に悩みを話すことは難しいことですが、思いきって人に話そうと思いました。　　三保青年団　望月俊郎

今回初めて参加させていただきました。

同世代の仲間と話すことで自分の中にある悩みや不安を解決するヒントを見つけることができ、気持ちが軽く前向きになりました。またこの会で初めて出会う人たちと仲良くなれて、それぞれが各地で頑張っている姿を見ると、とても励みになり私も頑張ろうと思いました。

今回培った力を自分の実として蓄えていきたいと思います。本当に良い体験になりました。

沼津市青年教育振興協議会
後藤真美

今回私は、KATARI 場に参加していろいろな気付きがありました。全体会で、分科会の内容を他の人に伝える場面があり、どのように発表するか同じ分科会のみなさんで考えたのですが、まさか私が提案した 4 コマ漫画を採用していただき、人生初の漫画という斬新な方法で自分の思いを伝えることができました。

KATARI 場を通じて、私は目標に掲げた第一歩として SNS で仲間の近況について「いいね」を押したりしています。みんなと共感し自分の意見を発信出来るように日々努力していきます。

島田市青年サークル　服部秀郁

静岡（青年球技交流会）

2 月 16 日(日)、青年球技大会「体も心もぽっかぽか 花咲く青年球技大会」を 5 チーム 46 名で実施しました。青年団を知らない人に青年団を知ってもらい、楽しく交流することを目的に実施しました。

初めはチーム内でもうまくコミュニケーションがとれず緊張した様子でしたが、時間が経つにつれてお互いに声を掛け合う姿やハイタッチをする姿が見られるようになっていきました。試合や審判をやっていない時に空いているコートを使って練習ができたため、チームで過ごす時間が十分にあり、仲間づくりに活かすことができました。

ソフトバレーの試合風景

リーグ戦の後には、他のチームの人とも交流できるようにと考え、もともとのチームがバラバラになるように工夫をして新チームを作り、交流試合を行いました。新チームでの自己紹介をした後、すぐに対戦相手を決めて試合に入りましたが、チーム内での会話する姿や試合中の声を掛けなど、どの参加者も積極的に交流をしていました。

多くの笑顔が花咲く事業となりました。参加者同士の交流も多く、今後につながる関係を築くことができました。

静岡市青年団連絡協議会 生形多芳美

島田（シマイク）

2 月 2 日（日）に今年度最後の青年ボランティア講座シマイクを開催しました。

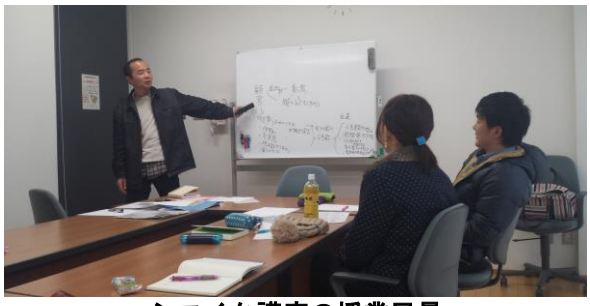
今回の講座は、大人が小学 3 年生の国語の授業を受けたらどの様に感じるかという好奇心をきっかけに、『みんなで授業』という内容とし、先生をやりたい人がそれぞれの授業をすることにしました。

当日は、団員 5 人が先生となり、団体運営のマネジメント、性格診断テストでの自分分析などをやりました。

授業を受けた人からは、「色々な話が聞けて楽しかった。」と感想をもらい、学びの多い時間になりました。先生を行なった人からは、「自分の頭でイメージできていても、それを人に伝えることは大変だ。」ということや「初めての試みだったが面白かった。」という感想があり、今後、もっと良い事業に向上させられる手応えを感じました。

今後は、今回の経験を存分に活かし、来年度の事業などに役立てていきたいと思います。

島田市青年サークル　会長　藤井隆一



シマイク講座の授業風景

後世に伝える。『私を最後に・・・』

静岡県青年団連絡協議会は、2014 年 3 月 1 日に焼津市内で行われた『被災 60 年 3・1 ビキニデー集会』に参加し、献花墓参平和行進及び久保山愛吉氏墓前祭に参列しました。 平和行進には 2000 人が参加し、平和を訴える旗を掲げる人やギターを持ちながら平和を訴える歌を奏でる人もいました。

そもそもこの集会は、核兵器の悲劇を繰り返さないようにという願いから今日まで続いている平和運動で、毎年 3 月 1 日は『原水爆禁止運動の日』とされています。遡ること、1954 年 3 月 1 日。マーシャル諸島のビキニ環礁付近を渡航していた静岡県のマグロ漁船の第五福竜丸はアメリカの水爆実験で死の灰を浴び、乗組員が被ばくしました。

ビキニデー集会では、焼津市長が「このビキニデーのような悲惨な出来事を二度と繰り返してはいけない。」と語っていました。また、当時被ばくした元漁師の方は「乗組員のほとんどは髪の毛が一気に抜け落ち、皮膚もただれ、数日後に帰らぬ人となった。」と語っていました。

そして、私たち青年は、久保山愛吉氏が生前に残した「核兵器の被害者は私で最後にしてほしい。」という言葉を真摯に受け止めなければなりません。なぜなら、被害を受けた人たちが寿命を迎え、生の声が語り継がれないからです。

私たち青年は、日本の未来を作っていく要であるため、強く訴えることで世界を変える力を持っています。平和な世界で暮らせるよう、今を生きる私たち青年にできることは、静岡県に身近な「第五福竜丸」を通じて核兵器廃絶について学習することです。その後、学習したことを踏まえて、核兵器廃絶について考える時間を作ってみてはいかがでしょうか。

組織部

編集後記

一年間ご愛読ありがとうございます。今年度は青年団活動だけでなく、社会問題にも力を入れて記事を書きました。この『たいよう』を見て青年団活動、社会活動に興味を持って頂ければ幸いです。